

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」多治見校			
○保護者評価実施期間	2025年11月10日 ～ 2025年12月27日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	5
○従業者評価実施期間	2025年12月15日 ～ 2025年12月27日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数)	9
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月10日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員の専門性	保育士、幼稚園教諭、言語聴覚士など専門的な資格を有した職員を複数配置。アセスメントツールも充実しており、こどもの発達段階を把握したうえで支援を行っている。	支援の質の向上をはかるために、社内外の研修に積極的に参加するのはもちろん、複数の職員で支援を担当し、職員同士が学びあう関係性の構築を目指している。
2	個別療育	1対1の個別療育と、一人ひとりのニーズや特性に合わせたオーダーメイドのプログラムを作成し支援にあたっている。	アセスメントの充実とプログラムの職員間の共有化を目指している。
3	保護者支援	こどもへの接し方を具体的に提示している。	保護者の悩みや就学に向けて、特別支援学級や通級の制度についての学習会などの開催。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	身体を動かす支援がスペースの関係でできない。	個別支援を基本としているため、支援ブースは座学には適しているが、運動をするには狭い。体を動かす支援の必要性を感じているが、実際にプログラムに入れることができていない。	発達性協調運動障がいと思われることもいるため、ストレッチや狭い場所でも工夫してできる運動を取り入れていきたい。
2	集団の中での様子が把握できない。	個別支援のため、1対1の支援を通じての課題はつかめるが、集団の中での様子がわからないので、集団での課題がつかみにくい。	保育所や幼稚園等との連携
3	利用者同士の交流の少なさ	個別療育を基本としているため集団活動と少ないこと、支援時間の関係で普段の交流は難しい。	保護者の要望を把握して、必要であれば交流が図れる場を持ちたい。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 こどもサポート教室「きらり」多治見校

公表日 2026 年 2 月 14 日

利用児童数

6

回収数

5

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	4	1	0	0		
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	5	0	0	0		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。 また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への 配慮が適切になされていると思いますか。	3	1	0	1		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こ ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	4	1	0	0		
適切な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受け られていると思いますか。	5	0	0	0		
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っ ていると思いますか。	5	0	0	0		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析され た上で、児童発達支援計画(個別支援計画)が作成されていると思いますか。	5	0	0	0		
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供す べき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこど もの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設 定されていると思いますか。	5	0	0	0		
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	5	0	0	0		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	4	1	0	0		
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動 する機会がありますか。	0	0	4	1		保護者の方のご要望があれば対応させてい たきます。
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁 寧な説明がありましたか。	4	1	0	0		
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	4	1	0	0		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家 族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	1	2	0	2		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況につい て共通理解ができていていると思いますか。	5	0	0	0		
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	4	1	0	0		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	5	0	0	0		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の 機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイ ベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだ いへの支援がされていますか。	0	0	2	3		保護者の方のご要望があれば対応させてい たきます。

	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	4	0	1	0		ご相談は随時お受けしております。相談しやすい関係を築いていきたいと考えております。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	4	1	0	0		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	4	0	0	1		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	5	0	0	0		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	2	1	0	2		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	0	1	0	4		
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	4	0	0	1		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	3	0	0	2		
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	5	0	0	0		
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	3	2	0	0		
	29	事業所の支援に満足していますか。	4	1	0	0		

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こどもサポート教室「きらり」多治見校				
		公表日				
		2026 年 2 月 14 日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		法令を遵守したスペースを確保している。集中できるように療育スペースは、プライベート空間を保つようにしている。利用者の特性に応じた配置をするようにしている。	周りが気になる児童がいるため、できるだけ静かな環境を作るようにしたい。また、利用者の特性に応じて支援場所を工夫する。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		現在、こども一人ひとりの状況を見て支援を適切に行うことができることが可能な職員の配置数である。利用者や来所時間を一覧表で管理しており、全てのスタッフが把握し易くなっている。	こども一人ひとりの状況を見て支援を適切に行うことが可能な職員を配置するとともに、複数で担当できるようにしていきたい。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		支援室までの導線もスムーズであり、けが等のリスクが減るよう工夫している。また、支援スペースに番号を振り、数や色でわかりやすくしている。また、段差等が殆どなく、車椅子での利用にも対応している。	完全な個室ではないため、隣のスペースの話しに左右されることがあるが、視覚的に目に入るものを少なくし、より集中できる環境を作りたい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こどもの活動に合わせた空間となっているか。	○		各療育室にウェットティッシュ、ティッシュ、アルコール消毒を配置し、支援後それぞれが机や椅子、筆記用具などの消毒をおこなっており、清潔な環境を保てるようにしている。	退出や入室する時間を調整し、利用スペースの導線が重ならないように配慮したい。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		利用者の障がい特性に配慮して、支援場所を設定している。個室や両サイドが狭くなっており集中しやすい空間が整備されている。個別に使えるドア付きの部屋がひと部屋あるため、必要に応じて使用できる環境である。	時間帯によっては利用者が集中する時間帯があるので、できるだけ集中しないように配慮したい。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		必要に応じてミーティングを実施し、支援の改善点についての共有化をはかっている。	PDCAサイクルを意識しながら、支援記録の記述をするように努めている。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者からの意見を真摯に受け止め、ご指摘を受けた点については、すぐに改善をはかるようにしている。	改善点が十分周知されていないため、より一層の業務改善に努めるとともに、ブログ、LINE、お便り等を利用し、周知をはかりたい。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		職場は風通しが良く、様々な意見を言いやすい環境にある。打ち合わせを定期的に行うことで、職員間の意見交換の場が設けられており改善に繋がっている。	ミーティング内容を社内チャットにていつでも見られるように文書化している。さらなる共通認識、共通行動を徹底したい。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	第三者による外部評価は現在実施していない。	実地指導、社内監査等によって指摘された点はすぐに改善できるように努力している。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		定期的に階級別研修や事例検討会・テーマ研修などの研修を受講する機会が確保されており、グループワークなどの意見交換の場もあり職員の資質の向上に繋がっている。	毎月の全体研修、エリアでの研修等を通して、校舎内の考え方だけにとらわれないようにしていきたい。理論的な研修は充実しているが、実践的な研修が増えると良い。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		ホームページによる公開、玄関、待合等での掲示をするなど、保護者、職員への周知を工夫している。	モニタリング、懇談等の際にも支援プログラムについて説明をし、一層の周知をはかりたい。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		定期的にモニタリングを行い、担当支援者からの情報を見発管に伝え、ニーズや課題を検討して計画作成をしている。	定期的なアセスメントにより、ニーズの変化にいち早く気づけるようにして、計画に反映していきたい。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		見発管に常に支援の様子や現在の課題を担当支援者として伝えるようにしている。情報の共有と現在の子どもの様子を伝えることで現在の課題を分析できるように心がけている。	全ての職員間で、こどもの支援の様子や課題についての情報交換を行っているが、さらなる共有化をはかりたい。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		職員同士の引継ぎを行うことで、日々の小さな変化を計画に反映できている。	計画に合った支援でなく、こどもの実態に応じて、計画のマイナーチェンジを行ってきたい。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		アセスメントツールは会社から出されたものを共通のものとして利用している。その上で、利用者個々の発達段階や障害特性に応じて異なるツールを用いている。	どのようなものを用いたら最も適切かを今後も検討していきたい。

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		こどもの支援に必要な項目を設定している。	「地域支援・地域連携」などの項目でも実効性のある具体的な計画を設定していきたい。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		チームで意見を言える場を設けることで、活動プログラムの立案まで行っている。	すべての支援が共有されているかという点とそうでない部分もあるので、不足している点は改善をして、チームで取り組む体制を構築していきたい。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		こどもが安心感を持てるように固定化した課題は残しながら、新しい課題も取り入れた支援ができるように工夫している。また、プログラムが固定されていることで安心できることもいるため、一概に固定化することが悪いことは言えない。	プログラムを把握して、できるようになったことや本人もレベルに合わない課題のときなどは、柔軟にプログラムを変更している。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。		○	集団を想定していないので、個別活動のみを行っている。	イベントを企画するなど、集団で楽しめる活動も取り入れることが可能ならば検討したい。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		個別療育のため個々の支援内容までは確認していないが、朝の打ち合わせの際に共有事項は話している。	個別の支援ではあるが、活動のプログラムは共有化はかかっていきたい。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援終了後に打ち合わせができない時には、次の日の朝には振り返りや気づいたことを共有している。また、職員間で情報交流し、共有したいときにはその都度行っている。	職員間で共有できていないこともあると感じている。職員間での共有がはかれるような関係性をつくるよう努力したい。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		支援記録は詳細に記録している。なにかあればさかのぼり、支援の検証・改善につなげている。記録はデジタル媒体に記録されており、常時間覧できることで利用者の情報を共有しやすい。	課題を明確にすること、次回の改善点を必ず記述するようにしていきたい。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		児発管と担当者とは意見交流を行った上モニタリングを行っており、適切な見直しができるようにしている。	こどもの様子を十分把握した上で計画の見直しをはかるように努めたい。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		相談支援専門員とのミーティングは児発管と担当者が対応することを原則としている。	会議と支援時間が重なる場合がよくあるので、連携を密にしていきたい。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		必要に応じて対応している。	要請があれば、必ず参加している。保護者の意向も組みながら適切に対応をしていきたい。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		必要に応じて対応している。	会議の設定時間など、担当者も参加できるような工夫をしている。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		就学支援シートを通し、市と小学校との連携をとることができている。	入学後の連携がなかなかとれないのが課題である。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		児童発達センターでの研修に積極的に参加し、講師の先生に助言を求めることができる機会を作っている。	今後も研修等に積極的に参加したい。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○	個別対応の施設の為、活動する機会はない。	必要があれば機会を設けたい。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		支援後にその日の支援の様子をお伝えしたり、メールやLINEでお伝えし、情報を共有している。	口頭で伝えるだけでなく、メール、LINE等でも報告をしている。今後も継続していきたい。

	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ベアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		保護者が参加できる研修については、知りえた物については積極的に情報提供をしている。	ベアレントトレーニングは今後提供していきたい。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		利用事前に書面、口頭で説明をしている。また、HPで内容を告知している。	モニタリング時に、変更点などがあれば、保護者に周知していきたい。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		モニタリングや支援後に様子をお伝えするときに、保護者や子供の意思を確認しながら話すようにしている。得た情報は児発管に伝え情報を共有している。	ホームページによる公開、玄関、待合等での掲示をするなど、周知方法を工夫したい。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		毎回、支援計画を明記した「支援メモ」に支援内容を記入し、保護者にサインをいただいている。	支援プログラムのねらいをより明確に保護者に提示していきたい。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		保護者から相談があった場合は、時間を取って相談に応じ、必要があれば面談を設定している。	定期的に面談を行えるように工夫していきたい。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○	毎月の予定の用紙で、子育ての悩みや相談事などを受け付けている。支援後のお楽しみのゲームなどを通して、きょうだい同士で交流する機会を設けている。	父母の会等は設定していないが、ご要望があれば検討したい。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		保護者から相談や申し入れがあった場合は速やかに児発管に伝え相談して対応している。	保護者から相談があった場合は、時間を取って相談に応じ、必要があれば面談を設定している。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		インスタグラムの週1回の更新、ホームページの月2回の更新を続けている。またLINEも活用している。	周知が不十分であると感じているので、周知をはかりたい。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		十分配慮している。	今後も十分に留意していきたい。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		職員間での共有化をはかり配慮につとめている。	今度も十分に留意していきたい。
非常時等の対応	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	地域に開かれた事業運営は行っていない。	必要があればそのような機会をもうけたい。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		HPIにも掲載し、事業所内でも常に閲覧が可能な状態にしている。感染症への対応については公式LINEからも見られるようになっている。	職員間の訓練は行っているが、利用者への周知を図るようにしていきたい。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		事業継続計画を策定している。訓練は定期的に行っている。	お便り、ブログ等で定期的に周知をはかりたい。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		把握している。心配あることについても、保護者との連絡体制も取れている。	こどもの状況についてあらゆる機会を通じて、情報を収集したい。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		食物アレルギーは保護者から聞く限りの情報は把握しているが、食事提供をしていないので、具体的な対応はしていない。	特になし。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画のもと、研修、訓練を行っている。	備品等の整備を急ぎたい。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		お便り、ブログ等で周知をはかっている。	あらゆる機会に周知をはかるとともに、職員の研修を充実させたい。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットについては、事故は起きるものという観点から職員の意識改革をはかるとともに、ヒヤリハットを共有することで、今後の方策について話し合い検討している。また、業務や備品・設備の配置なども定期的な見直しをしている。	常に危機感をもって物事に対処したい。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		研修に積極的に参加するとともに、他の職員への伝達も行われている。また人権セルフチェックを毎月行っている。	人権感覚を磨くとともに、研修を充実させたい。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		契約時に重要事項説明書に基づき、丁寧に説明をしている。また、そのような可能性がある場合は計画に記載する必要があることも保護者に説明している。	今後も徹底していきたい。